



愛媛県東温市 河之内自主防災会  
会長／河之内区長 坂本 憲俊

## 1 防災マップ作成の経緯

東温市は愛媛県のほぼ中央に位置し、恵まれた自然環境と県都松山市の至近にある地理的条件から、都市近郊の田園都市として発展を続け、人口約3万5,000人が暮らしています。

近年、メディアを通じて南海トラフ巨大地震の発生が危惧されていますが、東温市においては、大きな自然災害が発生していないため、子どもたちも自然災害の恐ろしさをテレビ等でしか見たことがなく、自分たちの周りにも起こりうるものとして感じていないのが現状です。

東温市では毎年、防災対策事業の一環として、管内の小学4年生全員が少年消防クラブに入会し、子どもたちに防災教育を行っています。平成26年度には、東温市立東谷小学校が防災マップ作成に賛同し、日本損害保険協会主催の「小学生の防災探検隊マップコンクール」に応募することが決まりました。

東谷小学校は全校40人の児童が通い、児童の中には徒歩で1時間をかけて通学するほどの広大な校区に、山に囲まれた四季折々の美しい風景が広がり、校訓「すなおな心でがんばる子」のもと、先生や地域住民に見守られ、素直で感情豊かな子どもが育つ学校です。

防災マップ作成においては、この地域は孤立地区に指定されていることもあり、子どもたちが自分の足で歩き、直接自分たちの目で見て地域の特徴や危険な場所の確認を行いました。「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を強く持ち、子どもた

ち自身がふる里を大切に想い、日頃から災害に備えることの重要性を感じるように子どもたちが主体となって作成しました。

防災マップを作成中で苦労したのは、一枚という限られた用紙に膨大な情報をどのように収めるかという点です。子どもたちが直接目で見て聞いた話を上手くまとめなければなりません。そこで模造紙に紙を貼って見開きにして写真を収めるように工夫しました。今まで模造紙に貼ることが難しかった写真なども付け足し、分かりやすく多くの情報をまとめることが可能になりました。

平成26年度の防災マップコンクールに応募して、全国約2,200点の中から入賞7作品に選ばれ「ぼうさい探検隊賞」を受賞することができました。審査員の方から、「校区内を中央構造線が通っていることも分かりやすく表現されており、自然豊かであるがゆえに自然災害の危険にもさらされているという地域の実情も伝わり、広い校区全体を調べていることが良かった」と評価をいただきました。これは子どもたち自身が限られた地域だけを調べるのではなく、校区内全てを調査したいと考えた結果が受賞に繋がりました。

## 2 防災マップ作成後の活動について

防災マップを作成した児童たちが、小学校を卒業し中学生になってから、子どもたちが地域のために何ができるのかを考え、大災害が起こった際に地域の役に立てるように、夏休みの1日を利用して子どもたち8人で防災合宿を行いました。

電気、ガスが使えない想定で1日を過ごし、まずは火を起こし自炊を行い、普段経験



東谷小学校の児童が作成した防災マップ

できないことを体験しました。このように、児童たちが小学校を卒業してからも防災について考え、活動してくれたのは、防災マップがきっかけとなっています。

この地域は、防災マップ作成後から自主防災会や老人会にも話が広がり、バケツリレー用のバケツやヘルメットを購入して地元のお寺で訓練を重ねていました。当初の訓練はバケツリレーや消火器の取扱い訓練だけでしたが、現在は、小学生や消防団にも広がり、放水訓練や消火栓取扱い訓練を行うなど参加人数や訓練規模も大きく広がっています。さらには、東温市女性防火クラブにも参加を促し、炊き出し訓練を行う計画もあります。

今後の課題としては、この地域は孤立地区の指定地域でありながら、高齢化も進んで



バケツリレー訓練

いる地域であるため、高齢者目線での防災マップ作成も計画しています。子どもから高齢者まで、この地域で暮らす人が自ら作成する精度の高い防災マップ作成を通じて、安心安全なまちづくりに関わっていきけるよう活動を前進させていきたいと思ひます。